

広報

なんせい

第21号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高鈞2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

新年のごあいさつ

代表取締役社長
田村 順一

新年明けましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健

やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、先ずは4年ぶりの年内操業に漕ぎ着けました喜びを皆様と分かち合いたいと思います。私は南西糖業と関わりを持って4年になります。が年内操業は初めての経験です。社内はもとより、農家の皆様の表情、町の雰囲気などがこれまでより明るく感じられますのは、私の気持ちが高ぶっているからだけではないと思います。

収穫面積を2年連続で増やして頂き、またメイチュウやイノシシ対策をしつかり行つて頂くなど、多くの皆様にご尽力頂いたお蔭と深く御礼申し上げます。また今年は早魃や台風被害が比較的軽く、天運に恵まれたことにも感謝したいと思います。

これで2年前の平成26年が徳之島のキビ産業再構築元年であったことは疑いなく、今年は3年目を迎えるわけですが、この上昇気流に乗ってキビ産業の再構築を是非とも完成させたいものです。私共は「最悪の状況下でも20万ト以上のキビが確保できること」が、徳之島のキビ産業が再構築されたと言える条件と考えております。これは徳之島ダムによる灌水事業も考慮すれば十分可能です。私共はその日が来るまで、キビ生産が16万ト程度に落ち込んでも赤字を出さずに2工場が維持できるだけの筋肉質に経営体質を変える努力を続けます。そして皆様に引き続きお願いしたいことは単収の向上と収穫面積の維持拡大です。私共はこの面でもしっかりと役割貢献して参ります。この度は年内操業の喜びを皆様と分かち合えましたが、近い将来、徳之島のキビ産業が再構築された喜びを皆様と分かち合える日が来ることを切に願っております。

末尾となりましたが、今年1年、皆様が安全に農作業を営まれますよう、また健康で幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

平成27／28年期
サトウキビ展望

本年度は、近年では大変珍しく、11月下旬での出穂が確認されました。年内にこれだけのさとうきびの花が咲き乱れる景色にNCOの全盛を懐かしく感じる方も多いかと推察します。これに合わせて、登熟も早期高糖の傾向で推移しており、買入価格は高水準での取引が期待できます。

一方、作況的には茎長に平年以上の伸びがみられますが、茎数はやや不足の傾向にあり、全体的には近年の不作

傾向を二時的に脱却して平年作で推移するものと観測しております。
但し、今年の早期登熟は近年、例を見ない状況ですので、製糖後半に向けて作柄や品質の動向を慎重に観測しつつ、現計画の春植推進期間並びに製糖終了日の判断は柔軟に対応したいと考えております。



出穂写真 (Nif8)

今期の製糖計画

キビ処理見込量		18 万 1,642 トン
製糖開始日		平成 27 年 12 月 22 日 (火)
年内搬入終了日		平成 27 年 12 月 27 日 (日)
年明け搬入開始日		平成 28 年 1 月 6 日 (水)
工場 休止 日	年末年始	平成 27 年 12 月 28 日 (月) ～平成 28 年 1 月 5 日 (火)
	洗缶日	平成 28 年 2 月 3 日 (水)
	春植推進日	平成 28 年 3 月 3 日 (木) ～平成 28 年 3 月 13 日 (日)
キビ搬入終了予定		平成 28 年 4 月 6 日 (水)

生産量回復に向けて！

原料統括部

1 春植植付面積の

目標について

本年度の春植植付目標面積は1,200haと高い目標を設定して取り組んでまいります。

徳之島において2工場を維持する為には絶対的に3,500ha、4,000haの収穫面積が必要です。幸いにも、本年度収穫するサトウキビの作況は回復の基調を感じさせるもので、V字回復の足掛かりになりそうな予感があります。本年度を折り返しとして、ここ数年のサトウキビ生産に対する島内農家の皆様の疲弊感が打開され、島の活力を再生する為にもこの目標は必達の覚悟で全島一体となつた取組に展開したいと考えております。

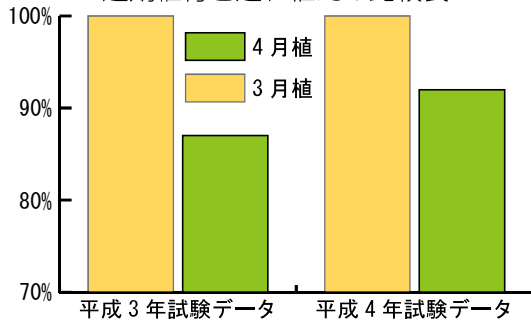
関係者の皆様のご協力よろしくをお願いします。

2 春植植付の

適期について

さて、昨年は7月の早期台風により植付適期である3月までに植えられた春植と比べて4月以降の遅植に多大な折損被害がありました。

《適期植付と遅れ植えの比較表》



※①徳之島支場データ(品種:NiF8)
※②3月植付を100%とする

やはり適期に植付けて早期に十分な生育を確保することが台風被害を軽減し単収を向上させて最終的な収益性確保に繋がります。

植付に係る作業量は同じなのでできるだけ適期の植付を心がけましょう。また、十分な茎数と初期生育を確保するためには、原原種苗やメリクロンに由来する種苗、病害虫被災の少ない種苗など健全な種苗を確保し植付けることも重要です。

そうすることでその後の管理作業の軽減や薬剤のコスト削減効果も期待できます。

3 株出管理に

ついて

徳之島は、夏季の台風被害と干ばつ被害の常習地域です。

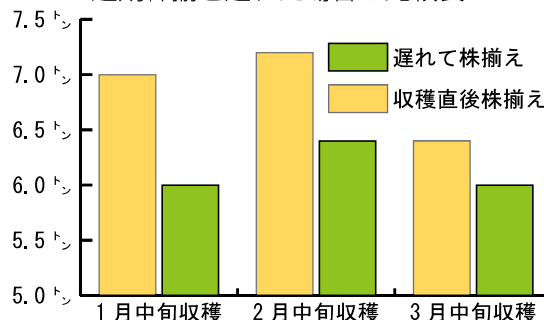
この気象災害の被災による減収については、如何ともしがたいところですが、少なくとも6月の梅雨までに茎数と茎長を充分に育てておけば、多少の災害の被災があっても十分に収穫量を確保することができま。

その為には、収穫直後の早期の株出管理作業が重要です。

サトウキビは地温が20度を超えると生育するので、徳之島では2月の下旬から夏までの間に十分な生育期間を確保することができま。

この生育期間を充分に利用して高単収を目指しましょう。

《適期株揃と遅れた場合の比較表》



※①徳之島支場データ(平成15～17年)
※②3品種平均(NiF8・F117・Ni17)

4 適正管理に

ついて

近年の不作は病害虫被害によるところも大きくこの防除に苦労した経過は周知の通りですが現有の薬剤などの効率利用により、かなりの効果が確認されております。

病害虫や雑草対策並びに施肥も適期の作業と対策が重要です。

農家全戸に徳之島さとうきび生産対策本部作成の「さとうきび栽培基準」が配布されていますが、この中にそれぞれの適正な使用時期や方法などが明記されています。

これを参考に、全作型とも栽培基準に基づく適期の作業を実施して、高単収を目指しましょう。

5 畑かん事業の

一部通水開始

平成9年度から取り組んでいる大規模畑地かんがい事業がいよいよ大詰めとなってきました。これからは地区ごとに散水設備が完備され順次散水が行われていくこととなります。

この事業では圃場の散水設備を設置するだけで70万円/10aもの多大なコストがかかります。

るところですが、圃場責任者はその費用のほんの数パーセントの支出で、設備を完備できます。

干ばつや台風などの常襲地域である徳之島においてはこの事業はわずかな支出で確実な効果が期待できる又と無い機会です。但し、事業が完了してからは設置を希望しても手遅れとなるので、この機会を逃すことなく農業収益向上の為の基盤整備に活用ください。

これから順次、関係機関からの「地区別の話し合い活動」など事業に関する情報提供が発信されますので、ぜひご参加ください。

【散水による生育状況の比較】



50周年 未来へつなごう島の宝サトウキビ！

南西糖業株式会社 創立50周年 平成28年5月7日(土)

お陰様で、南西糖業株式会社は平成28年5月7日をもちまして、創立50周年を迎えます。創立以来、弊社は、徳之島の基幹産業の一翼を担う企業として皆様と共に歩んで参りました。ここまで来られましたのも、関係機関や地域の方々の御助力、諸先輩方のご努力の賜物と、厚く御礼申し上げます。

この50周年という節目に、弊社の軌跡を改めて振り返ってみたいと思います。

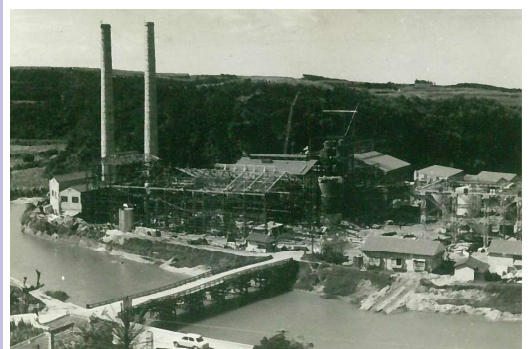
期	年月	主な事項
1	昭和41年5月	南西糖業(株)設立
3	5月	本社事務所を東京都千代田区丸の内に設置
7	43年4月	高松宮殿下・同妃殿下、伊仙工場視察
7	47年6月	徳之島事業本部制度実施
10	9月	徳之島さとうきび生産対策本部設立
16	50年5月	黒穂病全島蔓延の為抜き取り焼却作業
21	56年4月	最高収穫面積 5,262ha
24	61年6月	第一回試験研究発表会開催
25	平成元年4月	最高歩留 13.56%
25	2年4月	最高生産量 367,637t 単収7.637t/10a
26	2年7月	サトウキビ組織培養試験開始
26	2年11月	(有)南西テクノ設立
28	4年9月	(有)南西サービス設立
29	6年12月	サトウキビ品質取引開始
30	7年8月	徳之島さとうきびジャンプ会発足
30	7年12月	徳和瀬工場休止
31	8年8月	サトウキビ培養苗実用化推進機構設立
33	9年12月	平土野工場休止・徳和瀬工場再開
37	14年1月	平土野工場解体開始
40	17年12月	本社事務所を鹿児島市に移転
42	19年5月	(有)南西テクノ解散し、農業部門を(有)南西サービスに移管
43	19年12月	島別交付金制度開始
44	21年6月	本社事務所を東京都千代田区に移転
45	22年4月	14年ぶりに新入社員採用再開
46	23年7月	徳之島さとうきび新ジャンプ会を発足(旧ジャンプ会解散)
48	25年4月	最低生産量125,408t 単収3.618t/10a(台風被害に加え病害虫被害が蔓延)
50	27年6月	工務部を製造統括部へ組織再編 担当員制度廃止



南西糖業株式会創立祝賀会



高松宮殿下・同妃、伊仙工場視察



平土野工場 解体

新春企画

『申(猿)』にまつわる島の伝説

犬田布集落の伝統行事

「イッサンサン」

「申」は言語由来辞書によると、草木が伸び切り果実が成熟して堅くなつていく状態を表しているとされている。

どうやら申年は作物の実りに関係がありそうと思い、「申」にまつわる話を探して伊仙町犬田布の長老を訪ねた。集落の伝統行事「イッサンサン」の由来は今から700年以上前のこと。5年間も早魃が続く大飢饉となり、餓死者が続出する事態となった。そのため集落住民が集まって雨乞い祭りをすると、翌年は米や粟が今までにない大豊作となった。

その年は、申の年で徳之島が琉球国に服属して133年目の年だったので、イッサンサンと名付け、十五夜の前の戌申の日に、本年の豊作感謝と翌年の豊作祈願のお祭りを行った。それ以来欠かさずイッサンサンの豊年祭を行い、今でも集落の子孫に受け継がれている。

お祭りはまず、イッサン坊と呼ばれる力カシを集落の聖



お話を伺った犬田布集落の皆さん

700年前から豊作年になると言い伝えられる「申年」、サトウキビの大豊作も大いに期待したい。

新役員体制

去る11月19日開催の弊社定時株主総会並びに取締役会において左記のとおり役員が選任されそれぞれ就任いたしました。

つきましては今後とも倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長	田村 順一
専務取締役	岩淵 達夫
常務取締役	柴崎 不二男
取締役	加 和朗
取締役	大久 武信
取締役(非常勤)	黒田 一晴
取締役(非常勤)	益田 幸一
監査役(非常勤)	田中 敬明
監査役(非常勤)	多田 啓一

なお取締役金子勇人は本総会をもって退任いたしました。

在任中賜りましたご芳情に対し厚くお礼申し上げます。

増産



シリーズ 職場紹介(品取)



本号より工場の各部署をシリーズで紹介していきます。

今回紹介させていただくのは、農家の皆さんから受け入れたサトウキビの重量を測り、品質(糖度)を測定する品質取引室です。

工場に運び込まれるサトウキビ原料は輸送トラックで1日に約160台(1,000ト)1,200ト)ほどです。

まず重量を計測、その後糖度を測るために専用の機械(クラブ式サンプラー)で約10kgのサンプルを取りま



原料運搬トラック

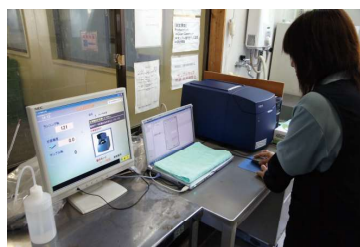
約10kgのサンプルから清浄キビとトラッシュ(ハカマ、梢頭部、土砂など)を選別します。

ここでトラッシュ(%)が計算されます。



トラッシュの選別作業

次に、トラッシュを取り除いた清浄キビを使つて糖度を測定します。近赤外分光分析計にセットしてから1分位で糖度が測定出来ます。



近赤外分光分析計

サトウキビの価格が決まる重要な工程を、12名の従業員が責任を持って慎重かつ公平な作業を行っています。

次回は、ケーンハーベスターで収穫された原料を脱葉する工程(デ・トラッシャー)を紹介いたします。